

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	沼田町認知症高齢者グループホーム なごみ	評価実施年月日	平成20年2月4日
評価実施構成員氏名	施設長 橋 英 則 主任介護員 下 山 千代美 <small>主任介護支援専門員</small> 介 助 員 上 林 早 苗 介 助 員 菅 沼 暎 代 介 助 員 相 蘇 千鶴子 介 助 員 篠 原 紀 子 夜勤従事者 岡 崎 しげ子		
記録者氏名	下 山 千代美	記録年月日	平成20年2月4日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	経営理念の中に『穏やかで楽しく、地域にとけこんだ「ホーム」に務める。』と謳われている	○ 地域の窓口となる職員を配置し、地域との調整を行う。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念はあるものの実際の取り組みはされていない。職員それぞれの名札の裏、建物内の2ヶ所に理念を掲示している。	○ 理念の内容の見直しと、専門的知識と技術も十分とは言えず研修等を通してより良いサービス提供に努めていきたい。名札を付けないことが多いので付けるようにしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	現在何もしていない。	○ 他の町立の施設(特養・養護)と協力し地域への広報、理解に努めたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時に挨拶をかわしたり、声掛けはしているものの立ち寄ってもらえるまでには至っていない。	○ 訪ねずらいとの声も聞かれており、その原因が解消されるよう努めていきたい。行事の参加の呼びかけを行いたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣施設(特養・養護)とは、協力を得て一部行事等に参加させてもらっている	○ 一般住民との交流はなかなか図れておらず、グループホーム、認知症の理解を促していき、徐々に交流を図っていきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	個人的にボランティアを行っているが、事業所としての取り組みはない	○ まずは、近隣施設で行われている行事のボランティアから始め、徐々に取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の自己評価・外部評価の結果を踏まえ、サービスの向上に努力している。</p>	○	<p>年に一度は自己評価を実施し、改善計画の作成等に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>利用者、家族、地域住民、支援センターの参加による会議等は行っていない。</p>	○	<p>運営推進委員会を発足し、早急に取り組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>情報提供等は、お互いに行なっている。入・退所時は、相談等を行い関わりを持っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要と思われる利用者、家族の希望があれば、対応して行く。</p>	○	<p>成年後見人制度等の制度理解を深めるような研修、勉強会等を実施したい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>利用者及び職員からそれぞれの声を聞き、虐待が無かったか、見過ごしていないか</p>	○	<p>実際に虐待行為(言葉の暴力)等があった場合は、会議にて報告し職員を</p>
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所・退所時に十分に説明し、理解して頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>随時職員が話を聞いたり、様子を見て話を聞いている。また、普段から話しやすい雰囲気作りにも努めている。外部者へ表せる機会には設けられていない。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>緊急時は随時報告し、他の個人的内容についてはその家族の面会時に報告し、希望家族にはケース記録を見せている。</p>	○	<p>個々の生活等は面会時に行っているが十分ではなく、特に職員の異動等については周知できていなく、家族へのお便り等の発行等で行ってきたい。</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>訴えてくる家族には随時話を聞いているが、他については特に機会を設けていない。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>特に機会には設けられておらず、随時職員から意見を聞いている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>病院の受診等は必要に応じて勤務の調整等を行っている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>不穏になることを避けるために、出入りに対して紹介等行っていない。</p>	○	<p>個人の認知力も違い、改めて知らせることで不穏になる人もいるが、きちんと理解できる人もいるので、利用者の状態に応じて対応したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>実情では参加が難しいが、最低限の研修は受けている。研修で得た知識は、日頃のケアで実践し生かせるよう努力している。</p>	○	<p>今後研修機会を増やし、研修報告も実施したい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他の福祉施設、又は町主催などで行われている勉強会等へ年に数回参加している。</p>	○	<p>今後も勉強会に参加したい。又、他のグループホームを見学したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職場内での仕事のストレス、人間関係の悩み等の相談を受けた場合、話を聞き助言をしている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>1人の職員ばかりに負担のかからない様、業務の流れ等配慮しつつ全体で協力し合っている。疲労感をためないよう、勤務表作成時には公休希望日をつくり工夫している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>表情、言葉、行動等を把握しながら、本人に問いかけし、良く傾聴し、本人の悩み、不安を取り除ける様努力し、支援している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族の不安を取り除く事も大切であり、現在どのような状況であるのか、ゆっくりと話を聞き、ホーム側で出来るサービス等の説明、他の施設紹介等調整を行い家族が求める内容等も配慮し努力している。(精神面、経済的な面など)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際、家族、本人の希望や状況により特養の紹介や在宅サービス種類等随時お話ししている。	○	利用を考えている人のみならず、地域の人たちが気軽に相談できるような体制をつくりたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前面接等安心して入居できるように努めており、状況に応じて日帰り等行っている。	○	今後もニーズの多様化に伴いよりスムーズな入所また安定した生活ができるよう、慣らしの時間を設けるなど必要に応じて随時家族と相談し取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お手伝いを通して、頼りにされていると感じられるよう気配りしている。また、米作り等今迄の経験で培ってきたことを教えてもらいながら共に一喜一憂している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	随時家族と相談し対応している。	○	便りや行事の参加等でさらに支えいく関係を築いていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時にお話をしたりしており良好な関係ができている。特別に何か取り組みはしていない。	○	より、理解していただけるよう、お便り等の発行を考えたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	町内の利用者に対しては、昔から使っていた美容室等利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	心身の状況や気分を把握し、声掛けをしながら役割活動を通しお互いに助け合い思いやる場面も多く見受けられ、調整役として支援している。孤立している利用者が居る場合、職員の声掛けと寄り添いケアも行なっている。(昔話を引き出すなど)		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の福祉施設に入所しても(近隣施設)利用者と一緒に面会に行ったりしている。町で家族に会ったりすると、「どうしていますか?」と声掛けするなど関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	表情、言動等日々の関わりの中で早期に状況を把握し少しでも本人の希望にそえるよう努めている。意思疎通が困難な場合は、家族に相談し情報を得たりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所依頼があった場合、自宅に訪問し本人・家族より聞き取り調査を行ない情報を得ている。入所後も親せき・家族・友人の面会時などそれとなく聞き出し情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活の中で一人一人の生活のリズムを把握し、出来る事と出来ない事を見極め本人の力が発揮できるよう促し、出来た時に誉め言葉、ありがとうの言葉を掛けるなど、次につなげていくように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族、本人の意思、希望も含め職員と話し合い、その人らしく暮らせるよう、介護計画の作成に取り組み活用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月の期間を設けて見直しを行っている。また、計画の変更が生じた場合には随時変更している。随時家族や利用者から希望等聞いてはいるが、あまり希望もなくカンファレンスの際、家族、利用者の参加を呼びかけていない。	○	柔軟なカンファレンスの開催と家族に参加していただき一緒に計画作成を行いたい。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のエピソード等は記録されているが、記録時間後のことや日勤、夜勤の境目等の記録が落ちやすい。また、プランに沿った記録が十分にできていない。	○	適切な記録方法の研修と、より機能的な記録方法の検討
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	希望に応じて参加。近隣施設で慰問等に見えた際一緒に参加させてもらっている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	近隣施設(特養・養護・デイ)の生活相談員やケアマネと話し、プランを立案し、事業の参加や入浴施設の利用やリハシーンの利用をしている。	○	近隣施設だけではなく、町の事業等にも参加できるよう調整したい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今のところニーズがなく取り組みはされていない。	○	今後、後見等のニーズが出てきた時等協働していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時に、町内は職員が同行し、町外は家族が同行受診する旨説明をしている。町外受診で緊急時に家族の都合が付かない場合は職員が代行している。家族、本人の希望があれば、病院を変えたりしている。	○	緊急であれば、職員による状況説明も必要なので、家族と一緒に同行する
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近隣に認知症専門の病院が無い。	○	認知症の進行状況等主治医に相談し、内服薬の処方の変更等有り。精神科受診等も医師に相談している。家族に物忘れ外来などを勧めた事も有る。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームには看護師がいないので、隣の特養の看護師に相談している。又、病院の看護師に状況を説明し指示を仰ぐなど気軽に相談している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入所時に環境の変化で混乱が見受けられる場合、家族、医師、ホームにて相談等行ない、一時ホームに戻るなどの配慮をする。入院中は本人の状況を医師、看護師に聞き情報の交換を行なっている。(家族にも同様)		本人の所へ届け物、洗濯物を持って行ったりと面会を頻繁に行なっている
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	寝たきりや医療行為が必要になれば、家族と相談する旨説明している。		少しでも長くホームで過ごせるよう努めている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	専門の看護師がいないため、重度化や終末期のケアは難しい。		入所時に重度化、医療行為が必要とされる場合は、他の施設入所などの説明をし、了解を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	認知症に対する理解が得られておらず、古いものを処分し入居に至ることが多く、その後生活にダメージがある。	○	初回の家族との面接を重視し認知症の理解を促したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉かけや対応については配慮している。記録についてはすぐに記録できるようにしていることで他の人も簡単に手に取ることができる。	○	記録保管場所の検討
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	随時職員が話を聞いたり、普段から話しやすい雰囲気作りに努め、外出なども本人の意思に合わせている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	過ごし方は自由に過ごしているが、食事、入浴等は職員の決めた日課になってしまっている。	○	その人の希望や今までの生活に合わせた生活リズムで生活ができるように、情報の収集と勤務体制の見直し、職員の意識改革を図りどう質の向上を図るかの対策が必要。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ほぼ自分たちの希望している理美容院を利用している。(ただし町内)		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いの多い利用者については好みを聞いたり、好みの味付けになるよう気配りしている。いもの皮むき、モヤシのヒゲ取り程度のことは声掛けでおこなってもらっているも、一緒に調理等の声掛けには、私たちはお金を払ってここにいるからそこまでする必要はないという雰囲気になっており困難。下膳は一人ひとり行っている。	○	自分たちでご飯や味噌汁をよそったり、お茶を自由に飲めるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒に関しては、アルコール依存症の方も居るので、誕生会、正月、行事の時は中止している。個人的には、自室にて提供するなど工夫している。タバコ、コーヒー、おやつは個々に対応している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間を見てのトイレ誘導等、紙パンツ、パットなどの工夫で個々に対応している。できるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう心掛けている。	○	羞恥心を大切にしておく事。ケアする面で過度にならないよう、気を付ける。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日、時間を決めている。一人ひとりゆったりと入浴できるよう配慮している。入浴を嫌がる利用者、又は、体調不調の利用者は別の日にし、気分の良い時に入って頂くよう工夫している。	○	入浴時の声掛けなど十分に配慮している。一人ひとりに職員が付き、できない部分をケアしている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠パターンを把握し、夜眠れない利用者にはお茶、おやつなどを提供したり、コミュニケーションを取り、不安を取り除くよう配慮している。他の利用者の不穏時の対応、ドアの開け閉めの音などに気を使っている。		ドアの音を軽減するよう、スキマテープなどを利用し、工夫している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	夏は小規模ではあるが、稲作作り(水遣り、育成状況)し、自分の役割として楽しみに行っている。芋掘り、野菜作り、花壇の草取りなど意欲を持ち行なって下さる方もいる。		地域、近隣施設の行事等に参加し、楽しんでいる。日々の生活の中で、その人が出きる買い物、芋の皮むき、洗濯物の干し・たたみなどをお願いし、自分にも役に立てるのだという満足感を持ってもらう。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望があればその都度一緒に買い物に出かけ、自分で品物を選び、買う楽しみも実感してもらう。自分でお金を持っている方もいるが、管理できない方は家族と相談し、金庫で預かっている方もいる。		自分で買い物が出来る方には財布を持たせており、精算も自分で行なっている。つり銭をため、キャラメルを買う楽しみを持っている方もおられる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	声掛けにより散歩の実施。また、外へ行きたがる利用者には対応可能時は職員が付き添い外出する。	○	対応できないことも多く、少しでも多く対応できるような体制を考えていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望はあっても町外であると事業所としては難しく。家族にお願いしている。また、家族の都合等から実現はしなかったが、外出の支援をプランに立案。	○	もっと積極的にプランに計画を立て、実行できるような体制を作りたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望により、電話の対応や手紙のやり取りができるようにしている。また、希望により自室に電話の設置も可能。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に訪問、宿泊ができるようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はいけないと漠然と考えているだけで、きちんとした理解はできていない。日中も対応が困難で玄関の施錠をしている。	○	少しでも施錠しなくてもいいような体制を検討したい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関に鍵をかけており、外へは出られないようになっている。	○	個々の行動パターンの把握と行動に対し対応できる態勢づくり。鍵をかけないようにするための職員の意識改革と前向きな検討。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中、夜間共に利用者の様子、さりげなく見守りつつ、全体を把握している。職員は事務所にこもる事なく、ホールにて記録、作業等を行なうよう努めている。ホールを不在にする時は、他の職員に声掛けする。		自室にこもりがちな利用者には、寒くないですか、暑くないですかとさりげなく声掛けし安全の確認をしている。体調の悪い利用者がある時は、すぐ対応ができるように一時的に入口の戸を少し開けるなどの工夫をしている。(家族・本人了解のもと)
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に応じ対応し、ハサミを持って自由に使用している方もいる。普段使用している洗剤、刃物は所定位置に有るが、包丁だけは帰る前に目の付かない場所に保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の状況に合わせて行なっている。事故報告書を作成し、家族への連絡、報告を行なっている。		自室の家具、ジュウタン等につまずき転倒の危険性がある場合、本人家族に相談し、移動や除去などを行っている。ホールも事故を未然に防ぐための配慮をしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	研修を受けている職員もいるが、隣の特養の看護師を頼っている事が多い。町主催、他の施設等で行われている勉強会等に自主的に参加している。		定期的に研修を受けるよう努めたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	ホーム内の避難訓練を行なったが、地域の人達への働きかけは行っていない。		消火器、火災報知機の点検は年に一度業者・消防署が入り行なっている。避難経路は常時除雪している。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族には、危険性などを説明し、ケアプランに盛り込み時には見直しを行ない工夫をしている。		玄関の鍵を掛け拘束している部分がある。鍵を掛けない工夫をし、威圧感のない暮らしができるよう努めたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルは基本的に週2回。他に特に観察が必要な利用者については随時行っている。また、日勤、夜勤の引き継ぎにおいて情報を共有し、気になる変化については、隣の特養の看護職員の助言や協力病院に相談し早めの医療機関受診をしている。	○	医学的知識が事業所全体に乏しく、隣の特養との協力体制を強化したいと考えている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容が書いた紙をファイルしいつでも見られるように置いてあるが、把握状況はバラバラで十分とはいえない。また、服薬介助方法もバラバラな対応になっている。	○	利用者一人一人の状態の把握が共有されておらず、職員一人一人の質の向上を図りたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	水分の摂取を促したり、軽い運動を促す等行い、その都度医療機関とも相談している。	○	利用者によっては十分な水分摂取とはなっておらず、特に介助が必要な利用者に対して十分ではない。職員の技術力の向上も必要なため、実習形式の研修も考えたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨きを促し、義歯については週に一度入れ歯洗浄剤で洗浄している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	以前特養の栄養士に作成していただいた献立を元に、職員が交代で献立を作成している。量についてはその人の病気や好みに応じて随時対応している。	○	何年も繰り返し献立を修正をして使用しているため、偏りが見られるため、定期的に特養の栄養士に監修していただく等の改善が必要。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの励行。ノロ流行時期には玄関での手指の消毒。マニュアル等はない。	○	マニュアルを作成し、いつでもすぐに対応できるようにしたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、布巾は毎日消毒している。冷蔵庫掃除は週1回実施し、調理器具も水分を拭き取り収納している。食材は鮮度の良い物が毎日配達される。週2回食材購入にも出掛け、賞味期限の確認と国産の食材を購入するよう心掛けている。		残った食材は、冷凍するなど早めに使用する。作った副食の残りは処分している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入口に手作りの案内表示、夏はブランターなどを置き季節感を出せるよう努めている。冬は屋根雪がスロープに落ちないように、又、風などを防止するためのカバーを設置している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気になる戸の開け閉め音には、スキマテープで対処している。台所での炊事の物音、臭いなど、又、季節感のある料理、なべ物、行事食など取り入れている。	職員の大声、声のトーンなどにも気配りしている。テレビのボリュームにも注意している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール内には、2ヶ所自由に座れるソファを置き、中央には食事テーブルが有り、椅子に座るなど自分の居場所、その時の気分に合わせ自由に使用している。利用者それぞれが時間によって落ち着ける場所が有り、安心して居眠りなどをしている。	気の合った仲間と水槽の魚を見たりなごやかな雰囲気もある。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時は使い慣れたなじみの家具などを持ち込んで頂き、「安心できる」「ホットできる」部屋作りを本人と家族に依頼している。	入所前にはきちんと使い慣れたなじみの物を使用するよう伝えるが、新しい物を持ち込む家族が多い。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭い等がこもらないように、空気の入替え、湿度、温度に気配りしている。ストーブの上に蒸発皿、湿気タオルを下げるなどの工夫をしている。(朝夕2回交換)ホールは、空気の入替えと加湿器を使用。	トイレの便臭は、消臭剤、スプレーなどを利用しすみやかに除去したり、トイレ回りの汚れにもすみやかに対応し、清潔保持に努めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーになっているが、トイレの手すりや廊下の広さ、手すり等十分ではなく、コール等も実用的ではない。	浴室については、浴槽の淵に付ける手すりを設置。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>手製の名札を作成して自室前にぶら下げたり、トイレ等はわかりやすいよう貼り紙をしている。さりげなく見守りし誘導している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の横の畑が見えるようにベンチの設置。畑や箱田んぼづくりを楽しめる。夏は花を楽しめるようコンテナに植え配置している。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)